

健康づくり施策の課題と今後の方向性

項目	主な現状・課題	今後の取組の方向性
健康づくり施策全般	<ul style="list-style-type: none"> ○健康格差、地域間格差。健康づくりに無関心な層がある。 ○ライフステージ（性・年代）別に課題が異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世代や対象者別の特徴に合わせて対策を変えるなど、効果的な普及啓発方法を検討し、実施していく。
健康日本21あいち新計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療・介護・健康など様々な健康情報やデータを活用して健康課題を明確化する必要がある。 ○ 特定健康診査の実施率が伸び悩んでいる。 ○ 「野菜の摂取量」が全国都道府県順位で最下位である。たばこ対策は若いころから進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療・介護・健康データをモニタリングしながら、健康課題を抽出し施策に反映していく。また、情報は市町村等へ還元し、市町村健康増進計画の策定と推進へ向けて支援を行う。（市町村健康づくり技術支援事業・地域健康課題分析評価事業の充実） ○ 特定健康診査、がん検診、労働者を対象とした健康診断等の徹底を図るとともに、受診率向上に向けた取組に効果があった事例などを積極的に紹介していく。 ○ 重要な課題である「生活習慣改善」について、適切な食事、禁煙など健康に有益な行動変容を進めるため、男性・学童期・大学生など啓発する対象者を明確にするとともに、学校教育、食育推進と連携するなど効果的な啓発方法について関係者と検討を行い、実施していく。
がん対策推進計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 女性が検診や医療機関受診を受けやすい環境づくりに向けた取組を検討・実施していく必要がある。 ○ 外来で放射線治療、化学療法や緩和ケア等のがん治療を受けられる体制が不十分である。 ○ 働いている人ががんに罹った場合、解雇などにより働き続けられなくなる場合がある。 ○ 市町村がん検診の実施に関して、死亡率低減のための効果的な実施の観点から、検診精度管理上不十分な点がある。 ○ がん患者や家族の方に対する相談支援や情報提供の面で十分な対応ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 女性特有のがんについて、検診受診や自覚症状がある場合の受診をしやすい環境整備に向けた取組を実施していく。 ○ がん診療連携拠点病院を中心として外来でがん治療を受けられる体制が充実するような取組を検討し、実施していく。 ○ がんに罹っても働き続けられる社会環境づくりに向けて企業等における現状を把握し、企業等や県民への働きかけの内容・手法について検討し働きかけを行っていく。 ○ 各市町村のがん検診の受診率、要精検率、精検受診率等の詳細な状況を毎年度把握し、検診精度管理委員会において精度向上に向けた意見聴取を行い、市町村へ助言を行っていく。 ○ がん患者や家族に対する相談支援のための取組を充実していくとともにホームページ等により、より多くの情報を県が提供していく。
歯科口腔保健推進基本計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「定期的な歯科検診」の必要性が十分理解されていない。 ○ 若い世代の歯科口腔管理に問題がある。 ○ 障害者や要介護者施設の歯科口腔ケアの実態が把握できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今年度実施した「歯科検診受診勧奨モデル事業」の調査結果を踏まえて、「定期的な歯科検診」の必要性の普及啓発を行うとともに、地域や職域等で歯科検診・保健指導が受けられる機会を拡充するための支援を行っていく。 ○ 働き盛り世代（職域）・学齢期を含む若い世代が、自ら適切に歯科口腔管理を行うことができるよう、その働きかけの方策について関係者と検討を行い、実施していく。 ○ 今年度実施した「障害者等口腔保健実態調査」の結果を踏まえて、施設の歯科口腔ケアの実態を明らかにするとともに、障害者等の歯科保健サービスの提供体制整備に向けた対策を検討していく。